

『先手必勝』の学級経営!



第四回

「小一プロブレム」への処方箋

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

はたから見れば一年生はかわいいものです。しかし一年生の担任の立場とものなれば、どうしてもかわいいただけですむものではありません。勝手に動き回ったり、少しでも気に入らないことがあると寝そべったりして、教師を困らせます。それだけ大変なので、新米先生が一年生の学級をもたれたら困惑されなにか気になってしまいます。そんな先生方へちょっとしたアドバイスができればいいな、そんな思いで書かせていただきました。

○子どもへの基本的なスタンス

今、小一プロブレムといわれるように小学生の幼児化が進んでいるようです。まるで幼子がだだをこねるように泣きわめいたり、授業中でも大声でしゃべったりしてしまいう子どもは、多くのクラスにいます。それなのに、多くの学校

が四月から給食を開始しますし、午後の授業もあるといったふうで、そのご苦労は並大抵ではないと思います。

まず言えることは、幼子のような子どもには幼子に接するようにすることです。実際には多くの子どもがいますし、授業は進めなければいけませんから思うようにはいかないでしょうが、そうした心構えは大事にして、できる範囲で努力してください。

○まずは甘えさせてもよい

一つの方法としてスキンシップを大切にします。休み時間など寄ってくれば受け止めてやります。手を握りながら話しかけるようにします。寝ころんでしまう子どもには自分もしゃがみこんで話そうにするとういでしょう。要するに甘えがたがる子どもには甘えさせてやるのです。まずは親のような気持ちで接することです。満足すれば離れるでしょうから、そのときは手放しでほめてやってください。

しかしこればかりやっていると、甘える子どもがふえるかもしれません。学級のみんなには、「Aちゃんが大人になったら先生に教えてね」と頼んでおきます。そうして「先生、Aちゃん、今日は寝ころがらなかったね」などと言ってくれたら、Aちゃんだけでなく指摘してくれ

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

た子どももほめるようにします。

○『つぎくん探し』

新米先生とにかくありがちなのは、個に対応している時、教室全体に目が行き届かないことです。また、その逆もあります。例えば子どもを一列に並ばせノートを走っている時、教室の後ろでふざけた走り回ったりしている子どもに気づきません。そうなると、教室は無秩序になってしまいます。そして、一旦そうなると修復は困難です。ですから個に対応しながら全体にも気配りできるようにしたいものです。こうした場合、一列に並ばせるようなことはせず、先生が机間巡視して指導するといいですね。

先ほどふれましたが、ほめながら子どもを伸ばすことも大切です。一年生は本能的にほめられたい欲求をもっています。「うわあ、すてき。ちゃんと席に着いている」。「Bちゃん、すごい。こんなに寒いのに汗かくくらいがんばっているね」。そんな言葉かけで全体がピシっとすることも多いもの。そのためには、『いいところ探し』をがんばりたいものです。ただし、ただほめればいいというものではありません。何をどうほめるかも大切です。例えば掃除をがんばっていると喜んでほめるのもいいでしょうが、「すごい、すみまでぞうきんでふいてきれいにし

てるよ」などと言えればさらに効果的です。

○『先手必勝』の学級経営

このいいところ探しは『先手必勝』にもつながります。いつも全体に目を行き届かせることにより、あっちでけんか、こっちで友達を泣かせるなどといった状態を防ぐことにつながるので。

もう一つ。これも先ほどふれましたが、友達のいいところ探しを子ども同士もするようになります。これは学級内の豊かな人間関係の構築につながります。

○授業では・・・

次に授業にふれたいと思います。一年生は着席しての学習ばかりではありませんね。体育はもちろんですが、生活科音楽科、図工科など、『○○遊び』と称する単元を中心に身体を動かす学習が多いと思います。そのような時、ともすれば教室が乱れがちです。

しかし、甘えさせてやることやほめることによって、先生と子どもとの間に好ましい関係ができていけば大丈夫です。思う存分活動させてやってください。ただし、先生はその中から価値ある学習活動をしている子どもをほめ、認め、共感するようにします。

このようにすると、甘えっ子や寝ころぶような子どもが案外活躍するものです。こうしたタイプの子どもはもともと活動的なので、身体を動かす学習のつてきやすいのです。そうならしめたもの。その活躍をほめるようにします。すると、価値ある学習への意欲はさらに盛り上がります。そして、自由に動き回る時と、ちゃんと席に着く時とのけじめもつくようになります。

○『先手必勝』なら大丈夫！

最後に、小一プロブレムは、入学当初の状態を指すのが一般的ですが、現実の子どもたちはそうとは限りません。内気なタイプの子どもは慣れるまで時間がかかるもの。慣れてきたころ問題行動が多発することもあります。しかし、『先手必勝』の学級経営なら、こうした子どもたちの様子も最初から気にかげられるようになりますよ。

